

楽西

～ らくさい ～
No.134
令和7年
8月15日発行

- 社会福祉法人
- 京都視覚障害者支援センター

〒610-1111 京都市西京区大枝東長町 1-67
TEL: 075-333-0171 / FAX :075-333-0172
✉→info@kyo-ssc.com
URL→https://www.kyo-ssc.com/



洛西寮 開所 40 周年 記念号

それぞれの
「見えなくてもできる」が
見つかるかも



洛西寮開所40周年

記念ビデオ

「ありがとう」

～ 「こんにちは」



YouTube
で配信中！



<https://youtu.be/dX6s48WbWtQ>

新理事長就任



理事長就任のご挨拶 小林 茂治



このたび、社会福祉法人京都視覚障害者支援センターの理事長を拝命いたしました小林茂治です。

身の引き締まる思いとともに、皆さまと力を合わせて、この法人の歩みを支えてまいりたいと存じます。

本法人の中心的な施設である洛西寮は、1985年に開所し、本年度で開所40周年を迎えました。

私が17歳だったあの年、私はまだ晴眼者でした。視覚障害という言葉も、どこか遠い世界のことのように感じていた記憶があります。

その後、40歳を迎える頃に視力を失い、初めて視覚障害者としての生活を歩み始めました。

今、当事者として、また障害者支援の現場に身を置く者として、視覚障害のある方々が地域で安心して暮らし、自分らしく生きられる社会の大切さを日々実感しています。

そして、その実現のために長年尽力されてきた先人の方々への深い敬意を胸に、私はこの役割をお引き受けいたしました。

小さな声に耳を澄まし、現場の声を土台にしながら、誰もが尊重される場づくりを目指してまいります。

今後ともあたたかいご支援とご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。





理事長退任のご挨拶 野村 武夫

私は2010年6月に理事長に就任して以来、役職員、ボランティアの皆様、利用者の方々や後援会、また地域の諸団体、京都視覚障害者協会、京都ライトハウスなどの関係団体、行政などのご支援とご協力を得て15年間理事長としてつとめることが出来たことに心よりお礼申し上げます。

私は現在、ほかにも高齢者、知的障害者、精神障害者などの社会福祉団体の役員として関わっています。それは私が健康であることへの感謝の意味もありますが、私自身が福祉の現場で働いた経験がないので、役員の立場であっても関わることで現場の現状や課題を知ることは大切なことだと考えたからです。

理事長としてこの法人に関わることは、視覚障害者の生活上の課題や悩みが何であり、そのことにどのように応えるべきかを考える15年間でした。この間多くのことを学ばさせていただきました。

「希望に満ちた成長への喜び」という法人の理念は素晴らしいものです。この理念をいかに日々の活動の中で実現していくかが問われています。利用者一人一人の成長をどのように考え、一人一人の成長のためにどのような支援が必要なのかを彼らとともに考え、支援することで共に成長することが大切ではないかと考えます。関わり合うことが互いの成長となり、喜びとなることを願っています。

私は職員たちのチームワークとモチベーションの高さをいつも誇りにしておりました。その一例はコロナ禍の過酷な現場で、職員が一致団結して見事に乗り切ったことです。このことは今も強く印象に残っております。

法人の事業はその地域の理解と協力なくして成長し発展することはありえません。地域との良好な関係を築くと同時に法人のよき理解者を増やす努力も必要です。

地域と共に歩み地域から必要とされ、地域とともに成長する法人であることを願っています。

最後に皆様のご健康と法人のこれからの発展を心よりお祈りいたします。

大阪・関西万博に行ってきました！

6月16日（月）、梅雨のさなかとは思えないほどの晴天に恵まれ、私たちは大阪・関西万博へ日帰り旅行に出かけました。

今回の旅行は、洛西寮が開所40周年という節目の年を迎えたことを記念し、利用者の皆さんにとって思い出に残る特別な行事にしたいという職員の思いから企画されました。

事前に「行き先として万博を考えていますが、どうでしょうか？」と利用者さんにお尋ねしたところ、「せっかくだからぜひ行きたい！」という声が多数あり、実現に至りました。



はじめての万博、職員もドキドキ

とはいえ、当初は不安もたくさんありました。大規模イベントである万博に視覚障害のある方々と一緒に行くのは初めての経験。

「安全に手引きできるだろうか」「パビリオンに入れる？」「希望通りに回れる？」——そんな課題を前に、職員同士で何度も話し合いを重ねました。旅行会社とも入念に打ち合わせを行い、準備を進めてきました。

天候も味方に！いざ出発

一時は「降水確率90%」という予報も出ていましたが、当日は見事な快晴に。気温30度を超える真夏日ではありましたが、青空のもと、期待を胸に万博会場へと向かいました。

会場に入ると、私たちを迎えてくれたのは巨大な「大屋根リング」。木の香りが漂うその下で、柱に触れながら「うわ〜、こんなに太いんや」「すごいなあ」と感嘆の声があがりました。

私たちの班はそのまま大屋根の下のベンチでお弁当を広げ、爽やかな風に吹かれながらゆったりとした昼食タイムを楽しみました。

他の班は、事前予約していた「AIスーツケース」体験や、お土産の購入などを優先し、別行動に。それぞれ日陰を探しながら、楽しいランチタイムを過ごされたようです。



一人ひとりの「行きたい！」を大切に

利用者の皆さんの「万博でやりたいこと」は多彩でした。

事前にアンケートを取り、「ミyakumiyakuのお土産が欲しい」「空飛ぶクルマを見たい」「ガンダムが見たい」「万博でお酒を飲みたい」などの声を集め、それぞれの希望にできる限り応えられるよう、同行職員・ボランティアが工夫しました。

参加者は56名。7班に分かれての行動でしたが、どの班も事前予約の「いのちの遊び クラゲ館」「AI スーツケース」を中心に、希望のパビリオンやお土産スポットを効率よく回ることができました。



最先端技術「AI スーツケース」を体験

話題の「AI スーツケース」は、視覚障害者の移動を支援する自立型ナビゲーションロボット。カメラやセンサーを内蔵し、障害物を避けながら目的地へ安全に誘導してくれます。

利用者さんは骨伝導イヤホンで音声案内を聞きながら操作し、同行者は連動したスマートフォンで同時に音声内容を確認できる仕組みです。

初めての体験に緊張しながらも、楽しそうにスーツケースと歩く利用者さんの様子が印象的でした。技術の進化を、実際に肌で感じた貴重な体験となりました。



それぞれの万博体験を胸に

今回の旅行では、班ごとに自由に行動するという、洛西寮でもあまりないスタイルを取りました。しかし、帰りのバスの中では……

「イタリア館でジェラート食べたよ」「イギリス館で紅茶飲んだ！」

「ドイツ館でビールが飲めた～！」「クラゲ館、太鼓をたたいたりして楽しかったよ」

など、皆さんそれぞれに楽しい体験をされたことが伝わってきて、職員一同、安堵と喜びの気持ちでいっぱいになりました。

ご協力に感謝を込めて

大変な暑さと混雑の中でしたが、多くのボランティアの方々にご参加・ご協力いただき、無事に全行程を終えることができました。職員も、それぞれが自発的に動き、情報を共有し合いながら全体を支え合えたことが大きな成果だったと感じています。

改めて、ご協力いただいたすべての皆さまに心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

◎「40 周年を迎えられておめでとうございます。地域の皆さん・ボランティアの皆さんありがとうございます。」



(山本 建一さん)

◎「これからも元気よくいろいろ頑張っていきます。」



(木村 亮太さん)

◎「入所して 37 年になりますが、楽しいことも嫌なこともあったけど、洛西寮に来てよかったです。これからも健康に気を付けて頑張っていきたいです。」

(若松 秋子さん)

◎「おめでとうございます。」



(竹川 幸二郎さん)

◎「洛西寮がどんどん大きく発展していきますように。皆で切磋琢磨して頑張っていけたらと思います。」



(榎本 克二さん)

◎「開所 40 周年、無事にこのときを迎えることが出来て嬉しく思います。自分が入所してからの 10 年間で振り返ると、嫌なこと・辛いこと、そして悔しいことなどいろいろありましたが、今考えると全てが思い出しかありません。まだまだ未熟な自分ではありますが、そこはく他人にも優しく自分にも優しくをテーマに、どうか温かく見守って下さい。」

(河野 健人さん)

40th
Anniversary

利用者さんの声
思い出。そして未来への希望。

◎「ここまで来られたのも皆さんのおかげです。これからも洛西寮が長く続いて欲しいです。」



(佐野 志さん)

◎「おめでとうございます。利用者も職員も楽しい生活をしていって欲しいです。」



(秋田 里香さん)

◎「40 周年おめでとうございます。新しい人が来ても古い人が手本になって頑張りましょう！！」



(東窪 幸一さん)

◎「これからもいつまでも作業が出来ますように。」



(大芝 希さん)

◎「僕も 40 歳なので前向きに行く！！」



(山岡 公介さん)

洛西寮開所 40 周年に寄せて

障害者支援施設洛西寮
施設長 田伏 久士



洛西寮はおかげさまで開所 40 周年を迎えました。40 年という長い年月の間に障害福祉を取り巻く環境は大きく変わり、障害者虐待防止法、障害者差別解消法など、さまざまな法律や制度が整備されましたが、社会的な課題、就労の課題、バリアフリー化の課題など、問題はたくさん残っています。

昭和 60 年 4 月に身体障害者授産施設として産声を上げた洛西寮が、大きく変わる時代の中を常に成長し、令和の時代まで続けられたことは、洛西寮が視覚障害の方に福祉的就労の機会と生活の場所としての住まいを提供し、その時々当事者である利用者さんや家族、関わる職員、理事、地域の方々などが支え、社会の中で必要とされてきたからに他なりません。そして、今はバトンを受け継ぎ 40 周年という記念すべき時を私が施設長として関わらせていただいています。

障害者の生活の場が、入所施設から地域社会へと移行していくことが、世界的にも、日本国内でも進められています。障害のある人もない人も、互いに支え合い、地域で生き活きと豊かに暮らす社会を目指す理念にはもちろん大賛成ですが、地域の中で暮らすための福祉制度や人々の意識など、まだまだ準備が整っていないことも少なくありません。

開所当初から、洛西寮は社会に開かれていて、社会に触れる機会を大切にしている施設です。家でばかり過ごしていた方が、施設の仲間から刺激や影響を受け、前向きに生きる気持ちを取り戻し、買い物やお出かけ、散歩などを通じて社会とつながる場ともいえます。

これまでも、これからも、社会で重要な役割を果たす施設の洛西寮、継続・存続していく責任は重いですが、そのバトンを次の時代に繋いで行くことが我々の義務であり、よろこびだと思っています。どうぞ、未永く洛西寮が続きますよう、皆様のお力添えをよろしくお願ひします。



洛西寮（らくさい作業所）では、マシン作業や点字印刷作業等の作業支援や ADL 向上を目的とした生活支援を行っています。また余暇活動として、レクリハ（レクリエーションとリハビリテーションを合わせた造語）の活動も行っています。開所して 40 年、利用者さんの、それぞれの「見えなくてもできる」を紹介します。

★「入所して 16～17 年で箱の組立や巾着の紐通し、和装の紙折り等ができるようになりました。箱の折りも速くなったし、いろいろな面でこれからも気を付けていきたいですし、何でも出来るようになりたいです。」



（東窪 幸一さん）

★「これまで働いたことがなかったけど、いろいろなことが実践的に出来るようになりました。」

（西村 保波さん）

★「箱折りの 1 番目しか折れなかったのが、全部折れるようになりました。」

（久馬 寛さん）

★「全く見えないけど、洗濯したり干したり出来るようになりました。シーツ交換も出来るようになりました。」

（佐野 志さん）



それぞれの「見えなくてもできる」

★「点字作業の原版折りが完璧に出来るようになりました。歩行訓練を受けて近くのファミリーマートまでほぼ 1 人で行けるようになりました。」



（木村 亮太さん）

★「数年前に比べてマシン作業の和装縫いの工程が全て出来るようになりました。」

（大芝 希さん）



★「お守りの折りとか袋に入れたりが出来ようになりました。紙折りも点字の印刷（取り）も出来るようになりました。」

（澤田 晃宏さん）

★「点字印刷（取り）が出来ようになりました。」

（多田 美幸さん）



それぞれの「見えなくてもできる」

★「頑張ってこみ入れ（ポーチの新聞詰め）が出来るようになりました。」
（出原 桃代子さん）



★「点字作業の校正と印刷（入れ）が出来るようになりました。」
（山岡 公介さん）



★「ミシン作業の下糸の交換も教えてもらって出来るようになりました。和装の合わせの作業も出来るようになりました。こみ入れも出来るようになります。」
（若松 秋子さん）

★「おみくじの袋入れやのり付けが出来るようになりました。」
（山口 和真さん）



★「箱折りが出来るようになりました。お守りの紙折りやビーズ付け・紐通しも出来るようになりました。」
（平井 弥生さん）



★「入所当時は出来なかったけど、箱作業（特に組立）が出来るようになりました。」
（山本 建一さん）



★「ミシン作業が出来るようになり楽しく作業しています。」
（榎本 克二さん）



★「ビーズ付け、箱折り、箱の組立が出来るようになりました。」
（秋田 里香さん）



★「箱作業と点字作業の一部が出来るようになってうれしいです。まだまだ弱点はありますが、どんどん超えていきます。また、集団生活を通して人の気持ちがわかるようになりました。ありがとう！！」（河野 健人さん）

洛西寮で、それぞれの「見えなくてもできる」を見つけませんか？
通所利用者、入所利用者、募集中です！

お問合せ先 〒610-1111 京都市西京区大枝東長町 1 - 6 7
障害者支援施設 洛西寮
（就労継続支援 B 型（らくさい作業所）・施設入所支援）
TEL 075-333-0171 E-mail info@kyo-ssc.com



法人沿革

1981（昭和56）年10月	京都府盲人協会が京都ライトハウス内に「紫野福祉センター」設立、社会福祉法人格を取得。京都府盲人協会から「京都盲人三療技術指導所」、「点字出版事業（紫野点字社）」及び、「京都府中途失明者巡回生活指導員派遣事業」を受け継ぐ。初代理事長に玉中修二氏就任。
1982（昭和57）年4月	紫野福祉センターが、京都市北区に「盲人ホーム・美鈴寮」を開設。「京都ライトハウス」が設立当初から運営していた盲人ホーム事業を受け継ぎ、盲女子三療家の共同治療所として経営に着手。
1985（昭和60）年4月	紫野福祉センターが、京都市西京区大枝東長町1-67の現在地に、身体障害者授産施設「洛西寮」を設立、重度視覚障害者のための授産事業を開始。社会福祉法人紫野福祉センターの事務局を洛西寮内に設置。
2001（平成13）年	「洛西寮」が建物、設備の改修工事に着手。
2008（平成20）年5月	初代理事長 玉中 修二氏退任→第2代理事長 眞野 哲夫氏就任。
2010（平成22）年5月	第2代理事長 眞野 哲夫氏退任→第3代理事長 野村 武夫氏就任。
2011（平成23）年5月	陶芸作業閉鎖。その後、陶芸作業場を改築し、医務室の移設と相談室の新設を行う。
2011（平成23）年10月	紫野福祉センター「洛西寮」が、身体障害者授産施設から障害者自立支援法上の障害者支援施設「洛西寮」へ移行。生活介護（日中活動）定員45人、施設入所支援（夜間支援）定員30人のサービスを開始
2012（平成24）年12月	法人名称を「紫野福祉センター」から「京都視覚障害者支援センター」へと変更。
2013（平成25）年3月	京都盲人三療技術指導所・新林本院と福西分院の2事業所を閉鎖。
2013（平成25）年4月	就労継続支援A型事業所「らくさい治療院」開設。 障害者支援施設「洛西寮」の日中活動事業に、就労継続支援B型「らくさい作業所」を定員20人で新設し、既存の生活介護「ちくりん」は定員25人へと変更。
2014（平成26）年3月	障害者相談支援事業所「スマイルサポート」開設
2020（令和2）年4月	洛西寮 就労継続支援B型事業「らくさい作業所」の定員を20人から40人へと増員。（生活介護「ちくりん」を廃止し、就労継続支援B型「らくさい作業所」に一体化）
2022（令和4）年10月	「盲人ホーム美鈴」を9月30日で廃止し、「美鈴治療院（就労継続支援B型）」へと移行
2024（令和6）年9月	「らくさい治療院」の 就労継続支援A型を廃止し、就労継続支援B型に移行。
2025（令和7）年6月	第3代理事長 野村 武夫氏退任 → 第4代理事長 小林 茂治氏就任

2025 年 4 月 18 日開催 洛西寮開所 40 周年 オープンファシリティー

洛西寮は、1985 年 4 月 20 日に開所いたしました。その 40 年を記念して、地域のみなさま、関係者のみなさまに、施設を開放し、取組みを知っていただこうと企画いたしました。

当日は、視覚障害当事者体験（白杖歩行・手引き）・利用者作業見学・記念講演・記念動画視聴等を行い、大勢の方々に参加いただきました。

記念動画は、YouTube にて公開しております（表紙参照）。ぜひご覧下さい！



七夕会

【朗読ボランティア協力による 七夕会&茶話会】



7月4日（金）に朗読ボランティア協力企画の七夕会・茶話会を開催しました。

朗読ボランティアによる演し物「あいうえおちゃん」と「ざしきぼっこの話」・「おべんとすいと」を披露していただき、利用者さんも一緒に楽しまれていました。

最後には、七夕の短冊に皆さん思い思いの願い事を書き、笹の葉に短冊の飾りつけをしました。希望者には、短冊の願い事を発表していただいたのですが、利用者さんのセンスが光る願い事には笑いが溢れ、楽しく終わることができました。

皆さんの願い事が叶うといいですね☆彡

朗読ボランティアの皆さま協力のもと開催できたことに感謝申し上げます。ご協力ありがとうございました。



催し案内



洛西寮まつり
10月18日(土)
14:00~17:00
『 **こども縁日** 』
♪もちろん大人も楽しんでね♪

今年度も洛西寮まつりを開催いたします！
洛西寮開所 40 周年イヤーということで、例年より、少し豪華にする企画が進行中です。
詳細は、後日発表いたします。乞うご期待！



ご寄附・ご寄贈 ※8月～12月（順不同・敬称略）

以下の方々より、ご寄附・ご寄贈を頂戴いたしました。ありがとうございました。

ご寄附（合計 146,400 円）

小島ともゑ・鈴木綾・友永満子・京都ウエルワイズメンズクラブ

ご寄贈（10 件）

秋田俊子・新子嘉則・北田桂子・北広美・河野泰治・鈴木綾・富森雪子・伴しずよ
村田光紀・西京地区更正保護女性会

月編集後記月

記事にあった万博旅行では、「行けてよかった」という声をたくさんいただきました。
行きたいところに行き、食べたいものを食べる——これはまさに自由であり、幸せのかたちのひとつだと思います。

しかし、利用者さんにとってそれは、なかなか思うようにいかない現実もあります。それでも洛西寮は、外出が自由にできる、めずらしい障害者支援施設です。

「あそこに行きたい」「あれを食べたい」——まずはそう思う気持ち、望む気持ちを持っていただきたいと思います。

ボランティアを募ったり、年 2 回の行事に合わせたりすれば、実現の可能性も広がるかもしれません。あきらめずに、もっと声をあげてください。

以前あった一泊旅行も、いつかまた復活できるといいですね。(K)